

学士特定課題研究論文

学位論文の  
体裁に関する研究

東工大 太郎

17B00000

東京工業大学  
情報理工学院  
情報工学系

指導教員 情報 一郎

2021 年 1 月

# 概要

学士特定課題研究論文は、シングルカラムでページ数に制限はない。

# 目次

概要	ii
第 1 章 序論	1
1.1 本研究の位置づけ . . . . .	1
第 2 章 結論	2
付録 A 定理 1 の証明	3
謝辞	4
参考文献	5

# 図目次

1.1	3次元の球 . . . . .	1
-----	-----------------	---

# 表目次

1.1	要素群 . . . . .	1
-----	---------------	---

# 第 1 章

## 序論

本論文は、学士特定課題研究論文の書き方 [1] の一例を示す。

### 1.1 本研究の位置づけ

ここでは、色々なサンプルを示す。次の式 (1.1) の通り  $n$  次元の超球を仮定する。 $n = 3$  の場合は図 1.1 のようになる。

$$r^2 = \sum_{k=1}^n x_k^2 \quad (1.1)$$

一方で、表 1.1 によれば、a、b、c、d の 4 つの要素がある。

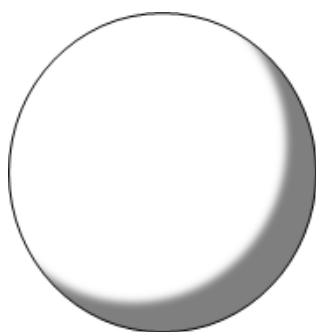


図 1.1 3 次元の球

表 1.1 要素群

a	b
c	d

## 第 2 章

# 結論

結論は、網羅的にかつ簡潔に。

## 付録 A

### 定理 1 の証明

必要に応じて、付録を載せる。



# 謝辞

本論文の執筆にあたり、議論して頂いた関係者に感謝する。

# 参考文献

- [1] 東工大太郎. 良い論文の書き方. *Journal of XYZ*, Vol. 3, No. 4, pp. 15–34, 2015.